

オーエンス(東京都中央区)



中小企業大学校旭川校

入すれば、相応の効果が得られる。しかし現実には、ビルの経営状態を計算に入れながら、最小限のコストで最大の効果を得られるようにしなければならぬ。同社が目指すのはそれができるPMであり、日比谷総合設備との業務提携はここに生きてくる。「我々はメンテナンスのプロ集団。現場を熟知しております。そして設備のプロ集団である日比谷総合設備と協力すれば、そのビルにとって最適な設備を、最適な状態で、最適に利用する事ができるのです。つまり、設備の技術的な

ノウハウと、運転、管理のノウハウが共有されるという事です。こうした専門性の高い技術や管理ノウハウを持った上でPMを行なえば、「品質を維持したままコストを適正化する」という事が可能になります」PMを行う企業としては、例えば同社のように元々BM会社であったり、デベロッパーなどの広義の不動産系企業であったりする他、仲介会社系、金融系などが挙げられる。当然のことながら各系統で得意とする分野は違うが、BM系が得意とするのは管理業務や設備の保守保全業務。同社は、得意分野だったこの面をさらに強化してPMに臨んでいるといえそう。

先述した通り、今回の提携には互いに不得手な領域をカバーし合うという消極的な発想ではなく、人材交流やノウハウ共有などを経て、業務を拡張するという目標がある。実際にワーキンググループが立ち上げられ、月に一度技術交流会も行われているとの事だ。また、新たな受注を確保するという営業としての面からも、両社の領域をうまくリンクさせ、新規顧客の開拓を狙うとの事である。

この業務提携がなされた理由の1つに、今後の同社の方針としてPM事業を強化していくという点が挙げられる。「これまで長年に渡りBMで培ってきたノウハウを活かし、今後はPM事業を強化していく予定。とりわけ重要視しているのは、環境への配慮、省エネなどです。そもそもPMの主要業務の一つには、可能な限りコストダウンを図りながら、その上で建物の品質を維持もしくは向上させるという事が挙げられます。当社ではこれを高い次元で実現させるため、単なるコストカットや管理業務の見直しだけにとどまらず、環境・省エネ対策を強化しようと考えております」

同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。

同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。

同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。同社は他にも東京体育館や江戸川区球場など多くの施設で受けている。

日比谷総合設備との業務提携など 異業種間のコンソーシアム構築 環境を重視したPM事業を強化する

今年1月、ビル管理業務を行うオーエンスでは、総合エンジニアリング企業の日比谷総合設備と業務提携したと発表した。これはオーエンスが中核事業として強化しつつあるPM事業を強力にバックアップするものだという。省エネ・環境問題が大きく取り沙汰される現代社会において、同社が掲げる理想の管理事業を聞いた。



代表取締役社長 大木 一雄氏

オーエンス

東京都中央区築地 4-1-17

日比谷総合設備と提携 環境重視のPM目指す

オフィスビルやホテル、各種の公共設備などの管理を中核事業とするオーエンスは、今年1月、日比谷総合設備と資本業務提携した。総合エンジニアリング企業である同社との提携について、オーエンス代表取締役社長の大木一雄氏はこのように語る。

「ビルメンテナンス会社同士がM&Aや合併で統合する事はよくありますが、本件に関して言えば、異業種間の業務協力という事になります。これによって双方の業務範囲が拡張し、また技術・ノウハウの交流を行なうことでさらなる業務品質の向上が実現できるでしょう」

この業務提携がなされた理由の1つに、今後の同社の方針としてPM事業を強化していくという点が挙げられる。「これまで長年に渡りBMで培ってきたノウハウを活かし、今後はPM事業を強化していく予定。とりわけ重要視しているのは、環境への配慮、省エネなどです。そもそもPMの主要業務の一つには、可能な限りコストダウンを図りながら、その上で建物の品質を維持もしくは向上させるという事が挙げられます。当社ではこれを高い次元で実現させるため、単なるコストカットや管理業務の見直しだけにとどまらず、環境・省エネ対策を強化しようと考えております」



同社が指定管理者として管理を行う千葉県国際総合水泳場



オーエンスの新オフィスエントランス